



重機向け 安全管理 補助器具

さわ ばか騒ぎ-TR

NETIS登録「ばか騒ぎ」
姉妹機種

- ・音と光でオペレーターに知らせ
- ・双方向通話が可能
- ・緊急一斉警報が可能

ばか騒ぎ-TR とは

作業員が持つ子機トランシーバーと重機に取り付けられた親機トランシーバーとの間で双方向通話や緊急時の一斉通報が可能な重機向け安全管理補助器具です。

親機 ばか騒ぎ-TR 機器構成



LEDランプ スピーカーマイク 子機

特徴

騒音の大きな重機内でも子機からの着信をサイレン音と点滅するランプで確実にオペレーターに知らせます。
緊急の場合には子機と親機の全体に警報を発することができます。
他者との混信防止のため市販品とは互換の無いデータ通信による管理方式を採用しています。

注)ばか騒ぎ-TRは子機、親機間の通信はIDによる認証が行われるよう設定されています。市販のトランシーバーを子機として使用することはできません。

親機1台に対して子機は最大99機まで利用可能です。

このような時にお役に立ちます

重機と作業員の接触事防止に
土砂災害現場での二次災害防止に
緊急事態の一斉通報
総合評価方式の創意工夫で評価点アップ

ばか騒ぎ-TRをこんな時にお使いください。



このような現場では手を振っても重機オペレーターはなかなか気付いてくれません。



ばか騒ぎ-TRを使えば重機オペレーターはすぐに気付いてくれます。



重機周辺の安全が確保された後、重機の傍に行くことができます。

重機への設置例



ほとんどの重機に後付け可能です。



座席後ろへの親機設置。

重機の種類により親機の設置可能な場所は変わります。

多くの場合、座席の後方にスペースがあります。親機には取り付け金具がついていてネジにより固定できるようになっていますが、レンタルの重機でネジ穴などをあけられない場合は、緩衝材で包んだ親機を置き、振動で動かないよう残りの隙間も緩衝材で埋めます。

電源はシガーソケットからとります。(シガーソケットアダプターを差し込んで給電します)シガーソケットが使用できない(他の目的で使用している、または故障している)場合、小型の密閉式バッテリー(オプション)を使用します。この場合はご相談ください。

スピーカーマイクは重機オペレーターが重機作業中に手の届く場所にかけておき、会話の時に口元に持ってくる事ができるよう、コードの長さに余裕があることを確かめておいてください。写真ではスピーカーマイクを使用しない灰皿の蓋にマイク裏面のクリップで取り付けています。

LEDランプは重機オペレーターが作業中に点滅に気付くように重機オペレーターの視界に入る場所に取り付けてください。写真ではLEDランプを右前方の窓沿いの丸棒に布テープで取り付けています。

レンタルの重機でフレームなどにネジ穴をあけられない場合、取付けはこのように既存の構造を利用して設置場所を確保します。



シガーソケットから給電します。



ランプはオペレーターに見える位置に取付。

本製品は作業員が子機の送信スイッチ(または、重機オペレーターが親機の送信スイッチ)を押した場合のみ動作するものであり、子機を携帯しているだけで警報が出るものではありません。本製品はあくまで安全管理を補助する機器であり、使用者の安全を保証するものではありません。予告無く使用を変更する場合があります。



子機トランシーバーは必要に応じて数が変わられます。



親機本体部



子機トランシーバー



ヘッドセット(オプション)も使用可能

ばか騒ぎ-TRはこんな場合に運用します。

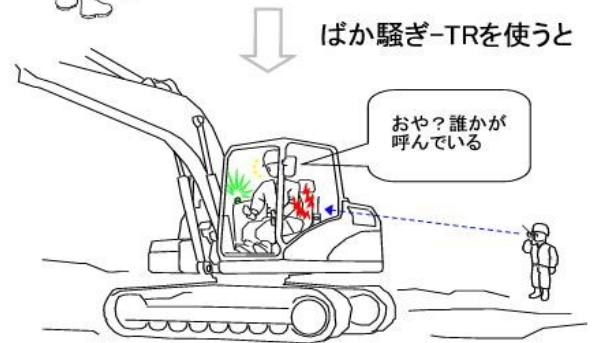
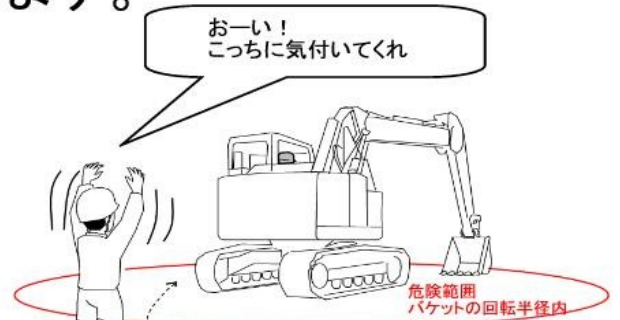
作業員が重機付近を通行する場合 (作業員が子機を持つ)

重機の傍を通らなければならないが、重機オペレーターが気付いてくれない。また、重機は止まってもオペレーターが本当に気付いてくれたのか確認できない。

ばか騒ぎ-TRを使えば

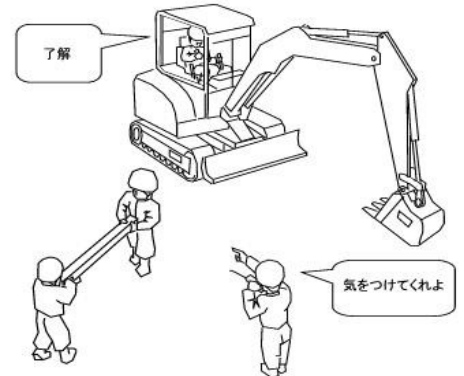
騒音の大きな重機の中でもサイレンの音とランプの点滅で重機オペレーターにお知らせします。互いの意思を子機と親機の通話で確認できます。

1. 作業員が子機を携帯します。
2. 作業員が重機付近を通行する場合、子機によって重機オペレーターを呼び出します。
3. 重機オペレーターはサイレン音と点滅するランプにより作業員に気づき、重機を停止させます。
4. 作業員と重機オペレーターは子機と親機で用件を確認し合い、作業員は安全に通行することができます。



作業員が重機付近で作業する場合 (監視員が子機を持つ)

1. 監視員が子機を持ち重機と作業員の両方を監視します。
2. 重機と作業員が接近しすぎた場合、監視員は子機で重機オペレーターに連絡します。
3. 重機オペレーターはサイレンとランプにより危険を認識し重機を停止させます。
4. 監視員は作業員に指示を出すなどして危険を回避します。



斜面崩壊などの危険がある場所で重機作業を行う場合 (監視員が子機を持つ)

1. 斜面を監視する監視員が子機を持ちます。
2. 重機オペレーターと作業員はあらかじめ監視員と斜面崩壊が起きた場合の避難場所を打ち合わせておきます。
3. 監視員が斜面崩壊の予兆に気付いた場合、子機で重機オペレーターや周囲の作業員に緊急警報を発します。
4. 重機オペレーターや作業員はただちに作業を中断し、事前に打ち合わせておいた場所に避難します。

